

- ・対象地域：苫前町
- ・苫前町人口：3,473人、うち苫前地区人口1,471人(H26年苫前町住民基本台帳)
- ・漁港：苫前漁港(第3種)、力屋漁港(第1種)
- ・漁業就業者：106人(H20年漁業センサス)
- ・漁業経営体：67経営体(H20年漁業センサス)

苫前地域マリンビジョン計画

～ くるるん&ふらっと とままえ ～

≪平成26年3月改訂≫

■拠点漁港のタイプ

- 都市漁村交流拠点漁港
- 増養殖支援拠点漁港
- 衛生管理流通拠点漁港

拠点漁港



苫前漁港(第3種)



風車(夕陽ヶ丘ウインドファーム風来望)

地域の資源等



ふわっとから望む夕日



エビ籠オーナー in 苫前

【位置図】



現状と課題

現状	○漁業就業者の減少と高齢化
	○天然水産物資源の減少
	○漁業と農業との連携が不足
	○シーフロントパーク構想の周辺整備がほぼ達成
	○雪氷熱の利用、屋根付き岸壁の整備中
課題	○シーフロントパーク構想との連携による地域活性化
	○資源管理とつくり育てる漁業への取組強化
	○漁獲物の付加価値によるブランド化
	○地域一体となった地産地消の推進

地域資源(特徴)

- とままえ温泉「ふわっと」
- とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ&オートキャンプ場
- とままえ夕陽ヶ丘未来港公園&親水防波堤(2階建てドーム)
- 風光明媚な土地(夕日、風車、草原、星空等)
- 水産まつり、風車まつり、凧あげ大会
- エビ籠オーナー in 苫前
- 雪氷熱を活かした高鮮度の海産物・農産物

地域の目指す姿

■ビジョンの特徴(理念)

苫前町の街づくり推進計画の核である「シーフロントパークとままえ整備構想」と連携して、臨海部の苫前夕陽ヶ丘地区に都市との交流拠点を創出し、地域産業が相互に協働・連携した取り組みを展開して、水産物を核とした、多くの来訪者との交流機会に恵まれた活力と賑わいのある環境の形成を目指す。

①地域活性化構想(都市との交流による地域活力の向上)

- 既存の観光イベントや地域のまつり等と連携した新たな都市との交流イベント開発への取組推進
- 来訪者や地域に地元農水産物を提供など地産地消の推進

②漁業・養殖業振興構想

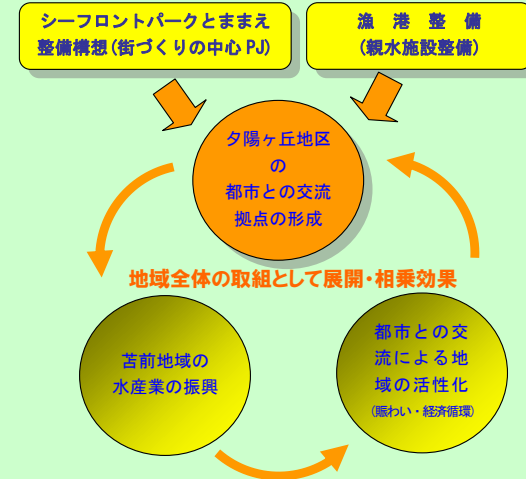
- 資源管理とつくり育てる漁業の積極的な展開の推進
- 漁場環境の保全・創造と循環型社会の構築
- 漁業後継者の育成・確保

③水産物流通・加工振興構想

- 衛生管理計画策定による食の安全・安心の更なる推進
- 多様な出荷・販売体制の確立

④災害に強い地域づくり構想

- 安全な避難体制の確立
- 総合的な地域防災力の向上



検討の体制

- 事務局(苫前町)
- マリンビジョン協議会
北るもい漁協、苫前町農協、商工会、観光協会、(株)大新東、高齢者事業団、苫前町内会、港町内会、プレジャーボート利用者、苫前町、行政関係者(アドバイザー)
- マリンビジョン検討会(ワークショップ)
北るもい漁協、苫前町農協、商工会、観光協会、ふわっと、(株)丸や岡田商店、星野水産、苫前商業高校、苫前町教育委員会、苫前町農林水産課

推進・フォロー体制

- 推進体制
・地域活性化構想検討部会
・漁業、養殖業振興構想検討部会
・水産物流通・加工振興検討部会
- フォローアップ体制
・苫前地域マリンビジョン協議会
(進捗確認・評価、検討部会への助言)

漁港の将来像

- ①いか釣り外来漁船に対応した機能整備
- ②防風雪防護(屋根付岸壁)への機能整備
- ③陸上養殖・活魚出荷への機能整備
- ④親水施設の有効活用の推進
- ⑤磯根漁業の支援機能整備
- ⑥安全な避難体制の機能整備

ビジョン実現のための主な取組み

- 地場製品のブランド化・付加価値向上によって、所得の向上を図る
- 地元農水産物を提供できる場を整え、域内外の人を対象に地産地消の推進を図る
- 土日定期市の開催、岸壁炉端による食の提供、農業・漁業が連携した朝市等地元農水産物のイベント型販売の強化を図る
- 受け入れ体制の強化に伴う体験学習・研修の実施によって、後継者不足の解消を図る
- 避難訓練の実施や緊急時の連絡体制を確立し、避難の安全性を確保する